Press Release

舞鶴市
MAIZURU CITY

報道関係者各位

令和５年８月31日

舞鶴引揚記念館　令和５年度　第２回企画絵画展
「労働と労働の合間に」の開催について

舞鶴引揚記念館では、令和５年度２回目の企画絵画展「労働と労働の合間に」を９月２日(土)から開催します。本展では、当館が所蔵する回想記録絵画において最も多い 242 点もの作品を遺されたシベリア抑留体験者の吉田勇氏の作品を通して、厳しい抑留の様子をお伝えするとともに、過酷な環境下の中にも労働の合間には心休まる瞬間があったことに着目し紹介します。

1. 展示期間　　令和５年９月２日（土）～　令和５年11月５日（日）
※展示期間中の休館日：毎週水曜日

2. 場　　所　　舞鶴引揚記念館　企画絵画展示室　（企画展は無料。別途入館料が必要です）

3. 展示趣旨

シベリア抑留では過酷な環境下においても、労働と労働の合間の休息時間、現地ソ連の人びととの交流など、そうした時には緊張感や不安感から解放された心休まる瞬間があったことはあまり知られていません。

吉田勇氏生誕 100 年にあたる本年、どのような環境下においても人が生きる上で精神的な支えや安寧がとても大切であることが収蔵絵画を通じてお伝えできればと思います。

4. 展示資料

総点数 19 点

- 素描　　15 点
- 油彩　　３点
- 着彩　　１点

5 吉田　勇　氏　略歴

大正 12 年（1923）12 月　奈良県大和高田市生まれ
昭和 19 年（1944）10 月　現役入隊後、満洲へ渡る
昭和 20 年（1945）終戦後、ウラジオストックの北約 100 ㎞に位置する町
ヴォロシーロフ（現 ウスリースク）などに抑留される

SDGs 未来都市

舞鶴引揚記念館（担当：長嶺）
〒625-0133 舞鶴市字平 1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp

昭和22年（1947）7月23日　英彦丸で舞鶴に帰還
　　復員（帰還）後は奈良県内で米穀商や映画館経営などをおこなう。
昭和62年（1987）吉田勇氏より回想記録画5点を舞鶴市に寄贈
平成12年（2000）6月14日　逝去　76歳
平成25年（2013）5月20日　ご家族より回想記録画237点を寄贈

6 主な展示資料

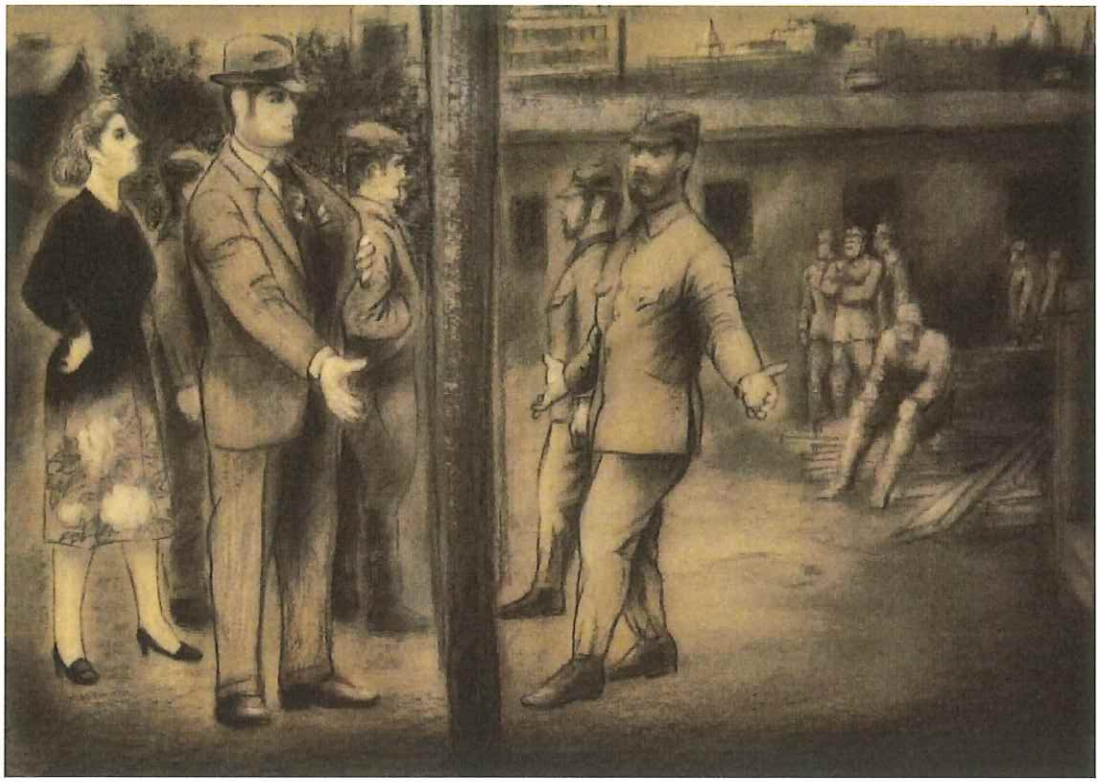
『天幕張り』

●サイズ：38.1cm×54cm　●制作年：1988年　素描

ウラジオストックから帰国してもらうが、婦女子を先行させるとので、君たちはここで待機していてもらうということで、連れてこられたルイチキという大平原の真只中で仮の宿舎としての天幕はりを各分隊毎にすることになった。我々は、帰国までもうしばらくのことがと信じていたので分隊競いあって、天幕はりに従事したものであった。

昭和20年9月初旬
画集「一兵士のダモイへの道」より

舞鶴引揚記念館（担当：長嶺）
〒625-0133 舞鶴市字平1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp



『収容所見物のソ連人』

●サイズ：47.8cm×62.9cm　●制作年：1984年　素描

ウォロシロフ収容所の頃は作業より帰所し夕食までの短時間にソ連人によくタバコをせびりに行ったものである。中略〉そのごろのソ連人は満州より略奪してきた背広を着用しており、襟元を裏返しにすれば日本人名が見える。〈中略〉中には私らの眼から見れば余りにもトンチンカンな改装もあり笑ったものだ。

昭和21年5月頃
画集「一兵士のダモイへの道」より

舞鶴引揚記念館（担当：長嶺）
〒625-0133 舞鶴市字平1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp

『昼食のご馳走』

●サイズ：38cm×54cm　●制作年：1985年　素描

ソ連将校宿舎の内容補修作業に従事した。見事に工事が完成したのに感激した老婦人は感謝の気持ちをこめたご馳走を作ってくれた。私らも喜んでご馳走をおいしく頂いた。

昭和22年6月頃
画集「一兵士のダモイへの道」より

舞鶴引揚記念館（担当：長嶺）
〒625-0133 舞鶴市字平1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp

『火打石』

●サイズ：38cm×54cm　●制作年：1984年　素描

ソ連労働者と一緒になり作業中の休憩のとき、ソ連人よりタバコを分けて貰った。火をつけるのはどうするかと見ていると原始的な火打石即ちロシア式ライターを巧みに使うのには感心した。あの時のマホルカの味は実にうまかった。

昭和22年5月頃

画集「一兵士のダモイへの道」より

舞鶴引揚記念館（担当：長嶺）
〒625-0133 舞鶴市字平1584
TEL:0773-68-0836、FAX：0773-68-0370
E-mail:hikiage@city.maizuru.lg.jp